



手の平を開いたハブ空港のような形 建物や地面を“みどり”で包む建築緑化

平成 23 年度 第 20 回建築作品 優秀賞 (株)高田建築設計事務所(長岡市)

サポートセンター摂田屋 プチ・リップチ Support center settaya Petit ripuchi

サテライト特別養護老人ホーム



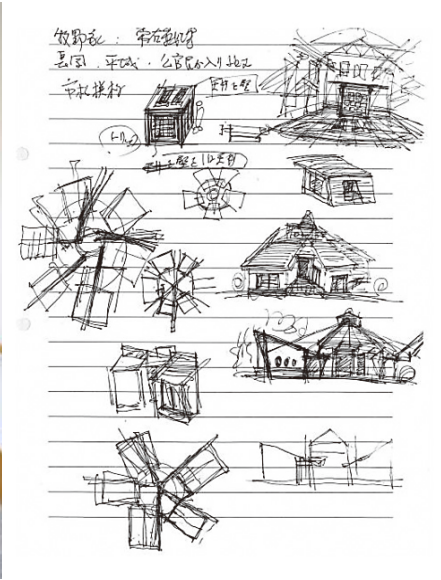
プライバシーを配慮した居室＝個々の家々



両ウイングには、各居室中央に設置されたリビング(共同生活室)があり、大丸太柱2本が象徴として



ウイングからのサブ玄関



デッキは、各戸の玄関、門灯と郵便受けも完備



各居室へのアプローチはスロープとデッキを経由



居室の内装も温かみのある落ち着いた配色に

コンセプト



ごく自然の居場所を求めて！

- ・当たり前居場所を求めて！
- ・山から里へ！
- ・断続から継続へ！
- ・特殊から普通へ！
- ・計画者視点から生活者視点へ！
- ・非日常から日常へ！
- ・施設から我が家へ！



かつては介護が必要になった時、日常から離れた景観の良い山に行こう!という風潮があった。その事は、生活空間として記憶されてきた風景が切断されることであり、遠隔地になった関係上、親近者とのコミュニケーションも途絶えがちになり認知症が進む事例も報告されている。介護が特殊な扱いとして隔絶された位置に置かれるのではなく、人間の生老病死のリズムの中で当たり前、ごく自然に取り扱われることが求められている。人と風景も破断しないことである。機能性を追求した合理的な仕組みは、時に計画者をして生活者を非日常に押し込んでしまう。当介護施設は生まれ育った地で、ごくごく普通の居場所を取り戻すためのプロジェクトでもあり、住宅地に自然に溶け込むことの重要性を要求されたミッションでもあった。

小規模多機能型居宅介護施設・地域交流室



語らいの場 デッキカフェテラス



バーカウンター付きラウンジやキッズコーナーもある地域交流室と小規模多機能スペースは道具で仕切られる



地域交流室と小規模多機能室をオープン



子供たちとふれあうキッズスペース



リプチの森



隣接する1Fグループホームと2Fユニバーサルハイツ

施設概要

長岡市摂田屋にあるリップチの森に、サテライト特別養護老人ホーム・小規模多機能型居宅介護施設・地域交流室を兼ね備えた『サポートセンター摂田屋』(通称:プチリップチ)が2010年に完成した。全体計画は、街並みに合うように、小さな家々が集まった形。施設には地域の方と語らうことのできるカフェテラス、子供達とふれあうキッズスペースもあり、様々な世代交流の場所として活用することができる。隣接してグループホーム(認知症対応型共同生活介護)とユニバーサルハイツ(在宅支援型住宅)が2011年に完成した。

敷地面積 1973.12㎡
建築面積 1039.67㎡
延床面積 972.29㎡



敷地全体を緑化し、手のひらを開いたようなプランニングは、各個室へ涼風を採り入れるに最適であり、ラジエーター効果も期待できる。基礎スペースを緑化する事で、蒸散作用(蒸発冷却)を活用する。地面と建物を直結する基礎部分を土・石・緑で包むことで、親和的なエレベーションが誕生。

ちいき交流の場

小規模多機能室と地域交流室をオープンすることで、町内会行事やお茶会など多目的な集まりに利用され、地域の方々との世代をこえた交流の場となる



講演会



ちまきづくり



お茶会



摂田屋保育園の園児たちによるクリスマス発表会とふれあい



季節ごとの楽しい飾りつけ



季節ごとの楽しい飾りつけ